

平成31年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人東京都歴史文化財団	
施 設 名	東京芸術劇場	
助 成 対 象 活 動 名	舞台芸術の創造現場を魅せる劇場	
助 成 期 間	5	(年間)
内 定 額	60,639	(千円)

# 1. 事業概要

## (1) 事業計画の概要

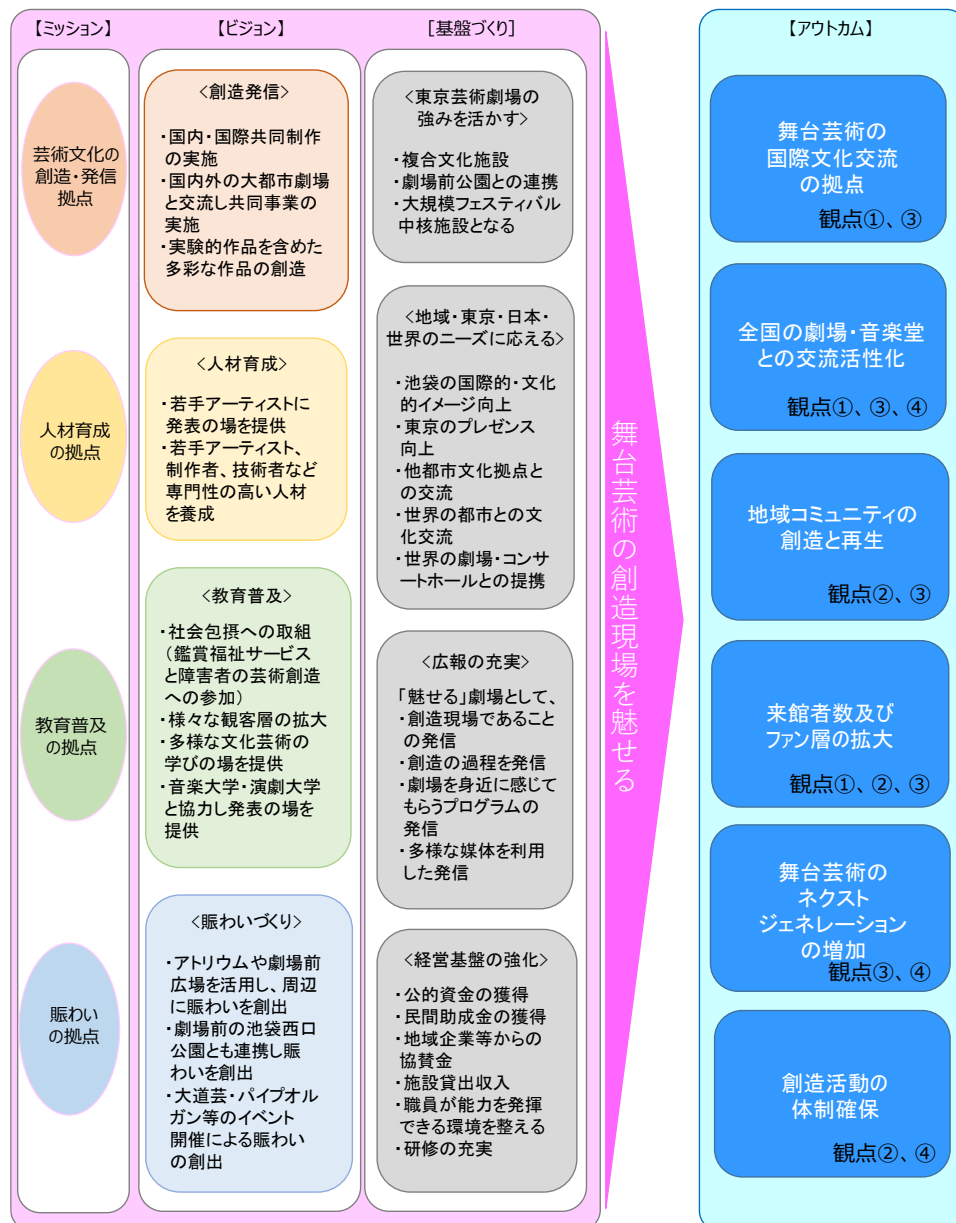
### 全体図（概念図）

舞台芸術に感動することは、人々の心を豊かにするだけでなく、生きていく上での様々な障害・困難を乗り越える力（イノベーション力）を生み出します。しかしながら、舞台芸術の鑑賞を気軽に行うことには一般の市民には様々なハードルがあることも確かです。

東京芸術劇場は3800万人とも言われる首都圏の国民の日帰り可能圏の舞台芸術施設として、また、日々約270万人が利用するターミナル駅に隣接する公共劇場として、舞台芸術と親しむにあたっての社会的なハードルの除去を仕掛けていきます。

まずは、劇場・音楽堂が単なる建物でなく芸術を創造し続けている魅力ある現場であること、そこではアーティスト(演奏家、演技者、ダンサー等)によって、日々、刻々芸術作品が作られているのだということ、そして、舞台芸術の作品はそこにあるのではなく観客がいて初めて作品になるのだということを、それぞれの事業を行いながら発信していきます。

劇場・音楽堂が人生を通じて身近で親しまれる場所になっていくために、東京芸術劇場は「舞台芸術の創造現場を魅せる劇場」としての取り組みを進めます。



(2) 平成31年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	読響との事業提携シリーズ (マーラー交響曲第3番)	2019年12月6日(金)	【曲目】 マーラー／交響曲第3番 ニ短調 【出演】 指揮：井上道義、 アルト：池田香織、管弦楽：読売日本 交響楽団 ほか	目標値	1,450
		東京芸術劇場 コンサートホール		実績値	1,677
2	海外オーケストラシリーズ 「フィルハーモニア管弦楽団」	2020年 ①1月23日(木) ②1月28日(火) ③1月29日(水)	【出演】 指揮：エサペッカ・サロネン、 ヴァイオリン：庄司紗矢香(1月23日・ 28日)、 管弦楽：フィルハーモニア管弦楽団	目標値	6,400
		東京芸術劇場 コンサートホール		実績値	4,090
3	東京ホワイトハンドコーラス	2019年4月7日(日) ～9月15日(日)	【サイン隊】 聴覚に障害のある子どもたちを中心 としたコーラス隊 【声隊】 視覚に障害のある子どもたちを中心 としたコーラス隊 【指導者】 コロネえりか、井崎哲也、古橋富士雄	目標値	40
		東京芸術劇場 リハーサル室など		実績値	40
4	東京芸術劇場 Presents プラスウィーク 2019	2019年 ①9月29日(日) ②10月5日(土) ③10月31日(木)	①東京吹奏楽団 第66回定期演奏会 ②東京佼成ウインドオーケストラ ③ブラック・ダイク・バンド	目標値	3,000
		東京芸術劇場 コンサートホール		実績値	3,434
5	コンサートオペラシリーズ vol.7	2019年10月26日(土)	【曲目】 ドビュッシー／『放蕩息子』、 ビゼー／歌劇『ジャミレ』 【出演】 指揮：佐藤正浩、管弦楽：ザ・オペ ラ・バンド、コーラス：国立音楽大 学合唱団 『放蕩息子』：浜田理恵、 ヴィタリ・ユシュマノフアザエル、宮 里直樹 歌劇『ジャミレ』：鳥木弥 生、樋口達哉、岡昭宏	目標値	1,200
		東京芸術劇場 コンサートホール		実績値	1,145
6	NHK 交響楽団 演奏会	2019年12月14日(土)	【曲目】 チャイコフスキー／交響曲第1番 ト短調『冬の日の幻想』ほか 【出演】 指揮：パブロ・エラス・カサド、ピア ノ：ダニエル・ハリトーノフ、管弦 楽：NHK 交響楽団	目標値	1,500
		東京芸術劇場 コンサートホール		実績値	1,368
7	0才から聴こう！ & 4才から聴こう！ 春休みオーケストラコンサート	2020年3月31日(火) 公演中止	コロナウイルス感染拡大防止のため 中止	目標値	2,600
		東京芸術劇場 コンサートホール		実績値	0

8	音楽大学オーケストラ・フェスティバル	2020年3月29日(日) 公演中止	コロナウイルス感染拡大防止のため中止	目標値	1,400
		東京芸術劇場 コンサートホール		実績値	0
9	芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー	アカデミー：通年 年末演奏会： 2020年2月29日(土)中止	【講師】 統括：東京芸術劇場、 演奏技術指導： 東京佼成ウインドオーケストラ、 キャリアアップゼミキュレーション： 木許裕介	目標値	800
		東京芸術劇場 コンサートホールほか		実績値	参加者 16
10	芸劇ジュニア・アンサンブル・アカデミー	オーディション： 2019年8月18日(日) レッスン：2019年9月21日(土) ～2020年2月1日(土) 発表会： 2020年2月2日(日)	【対象】 小学校高学年～高校生 【講師】 伝田正秀、杉本真弓、柳瀬省太、 渡邊千春、松葉春樹、大槻健 ほか	目標値	20
		東京芸術劇場 シンフォニースペースほか		実績値	30
11	RootsVol.7 野田作品 野上絹代演出「カノン」	2020年3月2日(月) ～3月15日(日) 全公演中止	コロナウイルス感染拡大防止のため中止	目標値	4,000
		東京芸術劇場 シアターイースト		実績値	0
12	朗読東京／自作自演	事業中止	事業中止	目標値	1,000
		—		実績値	—
13	ボッコちゃん ～ 星新一 ショートショ ートセレクション ～	2019年5月30日(木) ～6月2日(日)	【演目】「ボッコちゃん」(『ボッコちゃん』所収)ほか 【作・演出】原作：星新一 脚色・演出：チョン・インチョル 【出演】韓国ナショナル・シアターカンパニー	目標値	966
		東京芸術劇場 シアターイースト		実績値	760
14	招聘公演 ローザス	①2019年 5月9日(木)～12日(日) ②2019年 5月18日(土)・19日(日)	【演目】 ①Rosas「A Love Supreme～至上の愛」 ②Rosas「我ら人生のただ中において／ バッハ無伴奏チェロ組曲」 【出演】 ローザス	目標値	4,884
		東京芸術劇場 プレイハウス		実績値	3,851
15	TACT/FESTIVAL	2019年5月4日(土・祝)・ 5日(日・祝)・6日(月・休)	【内容】 1927『獣よ、子供よ、街に出よ!』、 マサト先生のミュージック・エデュ ケーション・プログラム～リズム! リズム! リズム!～ ほか	目標値	5,000
		東京芸術劇場ほか		実績値	6,510

16	オルガン・ア・ラ・カルト (ナイト、ランチ、講座)	<p>[ナイトタイム] ①2019年4月18日(木)、②6月20日(木)、③8月29日(木)、④10月17日(木)、⑤2020年2月13日(木)</p> <p>[ランチタイム] ⑥2019年5月23日(木)、⑦7月18日(木)、⑧9月26日(木)、⑨11月14日(木)、⑩2020年1月16日(木)</p> <p>⑪3月12日(木)公演中止</p> <p>[講座] 2019年5月27日(月)、8月1日(木)、9月26日(木)、11月14日(木)、2020年1月16日(木)</p>	<p>【出演者】 湯口依子、小林英之、原田靖子、ピエール・ダミアノー・ペレット、新山恵理、都築由理江、小野なおみ、安杏菜、森 亮子、川越聡子 ほか</p>	目標値	6,736
		東京芸術劇場 コンサートホール		実績値	6,272
17	バックステージツアー	<p>① バックステージツアー 2019年7月21日(日)</p> <p>② 劇場ツアー 7月～3月</p>	<p>① バックステージツアー Vol.11 「劇場のお仕事プレイハウス編」</p> <p>② 劇場ツアー</p> <p>【スタッフ】 劇場スタッフ、ファシリテーター</p>	目標値	200
		東京芸術劇場 プレイハウスほか		実績値	355
18	公演関連レクチャー	<p>①2019年5月5日(日・祝)</p> <p>②2019年6月7日(金)</p> <p>③2019年8月30日(金)</p> <p>④2019年9月20日(金)</p>	<p>【内容】 ①Rosas『A Love Supreme～至上の愛』・『我ら人生のただ中において／バッハ無伴奏チェロ組曲』 講師：越智雄磨 ほか</p>	目標値	300
		東京芸術劇場シンフォニースペースほか		実績値	184
19	舞台技術セミナー	2019年6月11日(火)	<p>【内容】 劇場で活躍する舞台技術スタッフのためのフルハーネス型墜落制止用器具特別教育 【講師】新島啓介、渡邊武彦</p>	目標値	70
		東京芸術劇場 リハーサルルームL		実績値	22
20	東京芸術劇場 プロフェッショナル人材 養成研修	通年	<p>【目的】 公的機関や芸術団体等で活躍することを旨とする若手人材に対し、プロデューサーなどとしての資質の向上、又は舞台芸術分野へのキャリアチェンジに資することを目的とする。</p>	目標値	6
		東京芸術劇場ほか		実績値	のべ33
21	東京演劇道場	<p>(1) ワークショップ ①2019年5月27日～5月31日、②5月28日、③8月5日～8月7日、④8月12日～8月17日、⑤11月23日～12月12日、⑥2020年1月10日・14日、⑦1月15日～16日、⑧2月4日・6日、⑨2月10日・14日</p> <p>(2) 自主稽古 不定期</p>	<p>(1) ワークショップ 【講師】野田秀樹芸術監督、井手茂太、エリック・マレット、リロ・パウワー、黒田育世、柴幸男</p> <p>(2) 参加メンバーによるクリエイションのための自主稽古</p>	目標値	30
		東京芸術劇場 リハーサル室ほか		実績値	60

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
<p>事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。</p> <p>2019年度は新型コロナウイルスによる公共施設の閉館のため公演中止事業もあったが、当館の行った事業それぞれが複雑に連関し、当館の4つのミッションである「芸術文化の創造・発信拠点」「人材育成の拠点」「教育普及の拠点」「賑わいの拠点」の達成につながった。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 当館で最先端の「芸術文化の創造事業・発信事業」（国際文化交流事業）を行うことで、東京及び日本の象徴として芸術文化を発信し、それに触れる機会を求めて日本の舞台芸術（音楽・演劇・舞踊）の将来を担う若手が当劇場に集った。</li><li>② 若手に研鑽の場（アカデミー・セミナー・ワークショップ事業）を提供することで、舞台芸術を支えるプロフェッショナルな人材育成の拠点となり、将来を担う子供たちに見せることで教育普及の拠点となった。</li><li>③ 障害を抱える人や社会的に孤立した状況の人などに鑑賞の機会を提供するとともに、芸術創造活動の場を作り、多様性を尊重する取り組みを行った。</li><li>④ 上記の活動を活発に行うこと、さらに、毎日270万人が乗降するターミナル駅に隣接しているという施設の強みや地域特性を生かした事業の推進、そして、それらを魅せていくことで、たくさんの人が当館に集まり、「賑わいの拠点」となった。</li><li>⑤ その賑わいは、施設内のテナントの収益事業にもつながり、収益事業会計から生まれる資金の振替が自主事業の活性化に役立つ。</li></ol> <p>という連関である。</p> <p>2019年度は、隣接する池袋西口公園が野外劇場として11月にリニューアルオープンし、フィルハーモニア管弦楽団来日公演時には、豊島区がイルミネーションとフィルハーモニア管弦楽団の映像コンサートを関連イベントとして開催するなど、一体化した企画を行い、広く一般の方に音楽・舞台芸術の価値を訴えていった。なお、2月末から3月の事業に関しては新型コロナウイルスの影響を受け、事業実施の中止を判断せざるを得ない状況であった。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>○文化的意義 「サロネン/フィルハーモニア管弦楽団」集大成となる3公演開催及び、VRによるオーケストラ体験の併催や、「ローザス」の招聘、オペラ「放蕩息子」「ジャミレ」のコンサート形式での上演、韓国ナショナル・シアターカンパニー出演による「ポッコちゃん ～ 星新一 ショートショートセレクション～」など、国際的な出演者による事業を行うことで、国際文化交流・多文化共生に貢献した。</p> <p>○社会的意義 「東京ホワイトハンドコーラス」の継続的なワークショップ開催によるダイバーシティへの貢献や、芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー、ジュニア・アンサンブル・アカデミー、東京演劇道場などによる若手アーティスト育成事業を通して、舞台芸術に携わるネクストジェネレーションの育成に貢献した。</p> <p>○経済的意義 オルガン・ア・ラ・カルトやバックステージツアーなど短時間で安価に参加できる公演の開催により、忙しく、コストパフォーマンスを重視する層や、近隣の人々を呼び込み、参加後の劇場内や近隣での滞留によるテナント及び近隣店舗などへの波及効果に貢献。また、多くの事業を行うことで、東アジア文化都市豊島区のイメージアップと活性化に貢献した。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

#### ① 舞台芸術の国際文化交流の拠点

「フィルハーモニア管弦楽団」、「ブラック・ダイク・バンド」、「ローザス」、「1927」、「韓国ナショナル・シアターカンパニー」、その他にも著名指揮者、オルガニストなど、いずれも話題性のある海外アーティスト、カンパニーの招聘を行った。目標としている「国際文化交流の拠点」に関しては年を重ねるごとに確実な実施ができており、それを踏まえて、今後さらに海外劇場・コンサートホールとの提携を促進していく。

#### ② 全国の劇場・音楽堂との交流活性化

音大フェスティバルやオーケストラ演奏会、オペラ、演劇の共同制作、オルガニストの共同招聘において全国の劇場・音楽堂等と連携して事業を行っている。さらに地方館発信の演劇作品の東京公演を共催するなど、地方発信の文化の東京紹介に貢献した。

#### ③ 地域コミュニティの創造と再生

社会的包摂プログラムとして、聴覚に障害のある子供たち、視覚に障害のある子供たちとの「東京ホワイトハンドコーラス」のワークショップを定期開催、またインクルーシブダンス「東京のはら表現部」を立ち上げ、定期的なワークショップ開催とファシリテーター養成に取り組み、障害を抱える人による芸術活動を活発化させた。

「芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー」は、2019年度も池袋地域の公園や商業施設での演奏活動を継続し、池袋エリアでの文化イメージ戦略に貢献した。

2019年度は東アジア文化都市2019との連携もあり、韓国からの招聘公演「ボッコちゃん～星新一 ショートショートセレクション」の関連企画として、豊島区教育委員会、日経新聞の協力を得て豊島区内の小学生を対象に日経「星新一賞」初代グランプリ作家、藤崎慎吾氏による特別事業をアレンジし、地域における当館のプレゼンスを高めると同時に地域への貢献を果たした。

#### ④ 来館者数・ファン層の拡大

低価格で楽しめる「オルガン・ア・ラ・カルト」コンサートは劇場ファン拡大に貢献。青少年、ファミリー層を対象とした「TACT/FESTIVAL」の実施においては、音楽・舞台公演のみならず、期間中いつでも楽しめるプログラムを充実したことで、さらなる劇場ファンの拡大に貢献した。助成対象事業ではないが、野田地図との共催公演「Q」では48公演で約44,000人の動員に成功した。

#### ⑤ ネクストジェネレーションの増加

継続的に実施している音楽大学オーケストラ・フェスティバル、芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー、芸劇ジュニア・アンサンブル・アカデミー、公演関連レクチャー、東京演劇道場など、舞台芸術を支えるネクストジェネレーションの増加に貢献した。

2019年度は台風による自然災害、新型コロナウイルスによる公共施設の閉館のため公演中止を余儀なくされたが、都度状況判断し、他館や他団体と情報を共有することで、柔軟な対応を行った。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

2019年度の各事業について、事業期間については当初計画に基づき適切に事業を進めたが、ワークショップ日程変更、演出家都合による事業中止、新型コロナウイルスによる公共施設の閉館のため公演中止等があった。

事業費については、上記理由や、対象公演数の変更、当初予定より入場者数が伸び悩むなど、結果として収入目標に達しなかったものもあった。

また、作品構成、演出の変更等により当初予定より経費削減ができた事業もあった。しかしながら、本助成は前年度中に発生した経費、実績報告書の締切り（今年度は3月25日必着）に間に合わない経費は計上できない等もあり、年度初めや3月に実施する事業については事業費の考え方が難しい。



## (4) 創造性

### 自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている（と認められる）か。

劇場としては、2009年より芸術監督として野田秀樹が就任し、劇場の方向性として創造発信、国際文化交流、国際共同制作、若手人材育成を中心に事業計画のプログラムをしている。

2008年4月に高萩宏が副館長に就任し、2019年度で、12年間副館長を務めている。就任以来、主に貸館として運営されていた東京芸術劇場を、創造発信の拠点とすべく、様々な機構改革に取り組んでいる。2012年からは、広報・営業を扱う部門を新たに作り、大規模修繕後の2013年秋からは、館内にチケットを取り扱うボックスオフィスを設置した。

2010年から、3年越しに取り組んだイスラエルの公立劇場との共同制作では、蜷川幸雄演出「トロイアの女たち」で、大きな成果を上げ、2017年のオン・ケンセン演出の「三代目リチャード」では、シンガポールフェスティバルと「ふじのくににせかい演劇祭」との共同制作を行った。

学生劇団の制作から舞台芸術界でのキャリアをスタートし、1991年の英国でのジャパン・フェスティバルの舞台芸術部門のディレクターを務めるなどアーツマネジメント、国際文化交流の専門人材として活躍している。1992年から1993年まで米国コロンビア大学に留学し、アーツ・アドミニストレーション・プログラムの研修を受ける。帰国後、1995年より東京ルネッサンス推進委員会主催のTOKYO演劇フェアのゼネラルプロデューサーを務めた。1996年6月まで東京グローブ座制作担当支配人、1997年4月より2008年3月まで世田谷パブリックシアター制作課長、後部長として活躍後東京芸術劇場の副館長に就任した。

アーツマネジメント教育の専門家として、1996年より桐朋短期大学非常勤講師、2000年より2002年まで東京大学大学院文化資源学客員教授、2003年より多摩美術大学芸術学科任期制教授、2006年より客員教授、その他早稲田大学文学部、日本大学芸術学部、立教大学文学部、東京芸術大学で非常勤講師を務めている。

2007年より2012年まで文化庁文化審議会文化政策部会委員を務め、2013年からは東京都公立文化施設協議会会長、2019年からは全国公立文化施設協議会理事、2019年からは東京芸術祭実行委員会事務局長を務めている。

著書「僕と演劇と夢の遊眠社」日本経済新聞出版社2009、共著書「文化のパトロネージ」洋泉社1991、「海外芸術フェスティバルに参加するには」国際交流基金1995年、「企業メセナの理論と実践」水曜社2010、「劇場空間への誘い」鹿島出版社2010年などがある。

事業としては、10年目となる「TACT/FESTIVAL」は、世代を問わず、国内外の上質なパフォーマンスを上演するフェスティバルとして定着してきている。毎年新しい試みを実施し今回は演劇と音楽チームが共同し企画した。また、劇場だけではなく地域と連携し、普段劇場に足を運ぶ機会のない人にも芸術に親しんでもらうことができた。

演劇・ダンス事業における国際文化交流としては、韓国から韓国ナショナル・シアターカンパニーを招聘し、またベルギーのダンスカンパニーローザスを招聘した。「ポッコちゃん～星新一 ショートショートセレクション～」は、韓国演劇界で最も人気と実力を兼ね備えた演出家チョン・インチョルと“ショートショートの神様”と呼ばれ幅広い世代に愛読され続けているSF作家星新一の異色コラボレーションが話題となった。韓国ナショナルシアターとは劇場間の国際交流を積み重ねてきており今後も良好な関係を築いていく。「招聘公演ローザス」は3回目の来日公演であるが、世界的評価が高いプログラムは、新たなダンスファン層の拡充と、シンプルな舞台上で展開された身体・音楽・照明の美的宇宙はダンスファンのみならず、音楽やアートに関心を持つ広い観客層にアピールができた。

創造発信としては助成対象事業ではないが、複数の地方館発信事業の東京公演を共催することで、地方館の良質な演劇作品の制作を応援・促進することができた。また各館との結びつきを深め相互連携プログラム、ネットワークの強化を図り、東京での成果を各地に還元する流れを構築した。

音楽事業では、2012年の大規模改修により更に音響の質を高めたコンサートホールを生かし、かつ他のコンサート専用ホールとの差別化を図るため、「未来の音楽シーンをつくるホール」をテーマに引き続き事業展開を行っている。

「海外オーケストラ シリーズ」では、開館以来芸劇とゆかりの深いフィルハーモニア管弦楽団を首席指揮者エサペッカ・サロネンが率いての最後の来日に合わせ、意欲的な集大成プログラムを3日間にわたりコンサートホールで開催した。同時に、デジタル・プログラムを実施したことで、国内では連日の熱演を印象付けるとともに、国内外への劇場周知の機会となった。中でも、バーチャル・オーケストラ体験は、オーケストラや劇場の新たな取り組みとして注目を浴び、WEBメディアにも大きく取り上げられ、音楽に触れることが少ない新規の聴衆層へアプローチが実現した。

## 自己評価

日本国内で上演されることが少ない作品をコンサート形式で上演するコンサートオペラでは、ドビュッシー『放蕩息子』と日本初演となったビゼー『ジャミレ』を取り上げた。佐藤正浩の音楽解釈によるザ・オペラ・バンドの演奏と、6人のソリストの歌唱、国立音楽大学の学生による合唱は、非常に高く評価され、今後の同作の良い上演例となった。

コンサートホールのシンボルとも言える世界最大級のパイプオルガンを生かした「オルガン・アラカルト」では、ナイトタイム、ランチタイム、オルガン講座とバリエーションのあるプログラムで鑑賞機会の拡大を担っている。2019年度は、合唱を伴う委嘱新作の初演や、オーストリアからオルガニストの招聘を行い、新たな芸術体験を提供した。

演劇若手人材育成については、今まで劇団や個人との提携事業実施にとどまっていたが、若手俳優育成を目的に2019年度に「東京演劇道場」を本格稼働させた。劇場が主催し若手俳優を定期的に育成する体制は国内でも数館しか前例が認められず、世論の関心が集まっている。

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

### ○マスメディアへの露出（助成対象事業）

新聞 65 件  
雑誌 80 件  
フリーペーパー 32 件  
WEB 395 件  
テレビ 2 件  
ラジオ 2 件

### ○設置者等外部からの評価

劇場内に学識経験者等により構成された「東京芸術劇場運営委員会」、また、事業運営の妥当性や効果評価する諮問機関として「東京芸術劇場外部評価委員会」を設置。

2019年度は外部評価の評定はA判定であった（ABC3段階評定）。

〔外部評価総評〕（一部抜粋）

・東京芸術劇場が掲げているミッションを見ると、芸術文化の創造・発信の拠点、人材育成の拠点、教育普及の拠点、賑わいの拠点とあり、およそ一つの文化機関が担っているとは思えないほど多種多様でオールラウンドな機能が挙げられている。一方で海外や国内の先進的な作品の上演があり、それと同時に地域との連携やアウトリーチなどがある。それに加えて若手世代のクリエイターの養成や観客の拡大、さらにはダイバーシティの推進など、さまざまな課題がある。東京芸術劇場はそれらの全方位的な課題によく応え、それぞれの課題に対して着実に活動の実績を積んでいる。それらの活動を支えているものは多くの協力者（団体）の存在である。そもそも芸劇のレパートリーの中には、外部の制作団体との提携や共同製作が非常に多く、それらの団体は民間の興行会社であったりオーケストラだったり劇団や学校やNPOであったりする。大型公演や普及活動の多くは各種の助成金によって可能になっている。国内各地の公立文化施設や海外の芸術組織とのネットワークがさまざまに芸劇の活動を支えている。それらのネットワークの核として、芸劇という組織体とスタッフがいる。一つの公共の劇場が存在することによって、このようなつながりが現実化していることが芸劇の持っている強みであると言える。今後も外の連携・協力者（団体）と連携・協力を強めることによって、芸劇自体の強みをより明確に発揮していただくことを期待したい。

・建物・設備のダイバーシティやバリアフリー化が行われたことは、今後も、より多様な生活者の文化芸術への距離を縮めるために重要な対応であった。芸劇の話題づくりとなる音楽・演劇の分野共に国内外の様々なネットワークを生かした質の高い事業を実現し、SNSなどを活用した広報にも力が注がれていると思う。

新型コロナウイルス関連による影響は大きいと思われ、結果としての数値はやむを得ない。

### ○情報発信

公式ウェブサイトアクセス件数 約 6,300,000/年  
twitter フォロワー数 約 92,000 フォロワー  
Facebook いいね数 約 5,700 件/年  
広報誌 BUZZ 発行数（年 4 回） 68,000 部/年

## (5) 持続性

### 自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

#### ○経営戦略

設置自治体である東京都との間での指定管理期間が2021年3月までの4年間となっているが、2021年度から6年間プロポーザル方式の随意契約で継続することが内定した。

2020年度からは、2018年に成立した「障害者アーツ法」を根拠に、障害者のアクセスビリティ拡大・事業への参加促進のために担当係長と主事を配置し、館全体をあげての取り組みを開始する。

#### ○音楽系大学と演劇系大学との連携強化

2019年度は新型コロナウイルスの影響を受け、公演自体は実施を中止したが、首都圏の音楽大学9校と協定を結び、各大学のコンサートを実施すると共に3月には著名な指揮者を招き選抜メンバーで行う音大フェスを当館、ミュージア川崎で継続して実施している。

演劇系では、首都圏の実技系演劇大学5つと組んで、演劇大学連盟の活動に協力すると共に、5大学の共同制作公演に場所を提供している。

#### ○経営資金の充実

協賛金・寄付金の獲得に関しては、3代目館長福地茂の時に年間一口20万円でパートナー事業者になれる制度をつくり、その後2015年より就任した荻田館長が先頭に立って企業協賛・寄付を集め、毎年約2,000万円を維持している。

#### ○組織体制（2020年4月1日現在）

館長 荻田伍、芸術監督 野田秀樹、副館長 高萩宏、管理課長 小山欽也、事業企画課長 鈴木順子、  
舞台管理担当課長 白神久吉、制作担当課長 内藤美奈子  
事業（音楽・演劇・賑わい・人材育成・教育普及等）担当職員 22名、  
舞台管理担当職員 9名、広報担当職員 6名、管理・経理担当職員 11名

#### ○各専門分野の人材育成

俳優志望の若手が継続的な訓練の場所が確保しにくいという日本の演劇状況に危機感を覚え「東京演劇道場」を立ち上げ、2019年度より本格的な事業として開始した。オーディションを経て当館の自主事業演劇公演に出演するメンバーも増えている。

舞台制作者を育成する「東京芸術劇場プロフェッショナル人材養成研修」ではOJTのほか、外部講師に依頼し、ゼミを実施。アートマネジメントやユニバーサルマナー研修等昨今の需要に対応した内容も実施している。修了生は劇場や演劇祭事務局などに就職をし、一定の成果を上げている。今後も継続して実施していく。

2019年より障害を抱える方や社会的に孤立した状況の方と共に自由に表現できる芸術活動を行うことを目的とした「東京のはら表現部」を立ち上げ、芸術活動を行うと同時に専門的なファシリテーターの育成も目指している。

劇場ツアーを展開するシアター・コーディネーター養成講座も継続的に実施している。

財団の職員派遣研修制度を利用して、2019年度は当館の職員をフランスのコンテンポラリーダンスカンパニーへ派遣し、作品制作過程に参加させるなど世界に通用する人材の育成に努めている。

#### ○施設

バリアフリー化事業計画に基づき、点字案内板・点字ブロックの整備、コンサートホールの手摺設置、ホール内難聴者向けシステムの改修などを実施。

竣工29年、大規模改修から7年目を迎えた建物の日常点検およびメンテナンスを実施。2019年はプレイハウスのインバーター更新工事を実施した。

舞台運営において安全かつ確実なサービス提供のため「フルハーネス墜落防止器具特別教育」を当劇場スタッフが講師となり内外対象に実施した。

今回の「新型コロナウイルス COVID-19」によるパンデミックに対して、舞台芸術、音楽など様々な芸術団体、興行団体とネットワークを組み、活動の維持、新たな活動への取組みを始めている。